

2021年度 発達支援つむぎ 横浜西口ルーム 職員アンケート改善策報告

いつも発達支援つむぎをご利用いただき、ありがとうございます。職員アンケートの結果および改善策の報告をいたします。
 今後も支援の質向上に努めてまいりますので、お気づきの点などございましたら、施設長または職員にお気軽にお知らせください。

		質問内容	平均スコア	改善策・ご意見への対応について
体制設備・環境について	Q2	入口や指導室、カフェ、トイレなど、ルーム内は清潔、整理整頓され、お子さまが活動するにあたり安全な環境であるか。	4.00	子どもたちにとって必要な環境は何かを自分たちに問いかけ、不要なものは処分し、必要なものを用意できるように日々環境を見直していきます。
	Q3	職員の配置数、職員の専門性は適切であるか。	2.17	採用活動を十分に行い、職員体制を整え、安心して業務に従事できるよう努めてまいります。
	Q4	業務中の休憩および休暇は適切に取れているか。	3.17	お互いに業務の進捗を伝えあい、業務効率化を図ることで、休憩時間が確保できるようにしてまいります。
	Q5	ルーム内の環境や指導員の人員体制について、ご意見をお聞かせください。		人員不足という課題がある反面、そのような状況だからこそチーム支援の力が高まっていることも感じています。一人ひとりが当事者意識を持ち、主体的に働く背中を子どもたちにも見せられるよう努めます。
業務改善について	Q6	業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、広く職員が参加しているか。	3.50	昨年度よりも、自分事としてPDCAサイクルに参加している職員が増えています。時に葛藤も生みますが、「子どもたちの最善の利益を保障する」という目的のもと、全員で業務改善に努めてまいります。
	Q7	保護者にアンケート調査等を行い、保護者の意向や意見を把握し、業務改善につなげているか。	4.33	保護者様からいただいたご意見を、職員間で共有し、必要な業務改善につなげられるようコミュニケーションを密にとるようにいたします。
	Q8	この自己評価表の結果を事業所内掲示やホームページなどで公開しているか。	4.50	事業所内の分かりやすい箇所に掲示し、自分たちがスキルアップや業務効率化していったほうが良いところを考えられるようにしてまいります。
	Q9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3.83	必要に応じて第三者評価による外部評価を検討します。また、まずは法人内の内部監査を受け、指摘事項が減るように努めてまいります。
	Q10	職員の資質、療育スキル向上のため研修の機会を確保しているか。	3.50	子育てスキル講座など、横浜西口ルームの参考になるものについては、施設長から積極的な参加を呼びかけます。
	Q11	業務改善について、ご意見をお聞かせください。		
適切な支援の提供について	Q12	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	3.83	心理・言語・理学・作業・社会福祉の専門家集団である強みを生かし、得意な分野の学びあいをするなどで、アセスメントの標準化につながるようにしてまいります。
	Q13	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画を作成しているか。	4.17	一つの階段を上るためには、行きつ戻りつすることが必要ということを念頭に置き、子どもにとって今必要な支援は何かを考え、支える大人たちみんなが共通理解しながら支援して行けるようにしてまいります。
	Q14	グループ指導や個別指導のプログラムは、支援目標に沿ったものになっているか。	4.33	最低6か月に一度の個別支援計画の見直しにおいて、目標を達成している子どもが多いことから、横浜西口ルームでの遊びは目標に沿って展開されていると言えます。今後も着ることなく、質の高いサービス提供に向けて邁進してまいります。
	Q15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4.33	引き続き、子どもたちが今何をやりたいと考えているかにも目も耳も傾けられるような職員集団であられるよう努めてまいります。
	Q16	プログラム開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる内容や役割分担について確認しているか。	4.00	横浜西口ルームの見取り図を用い、どこでどのような遊びを展開していくか打合わせをしています。遊びだけでなくケガの予測にもつながっていますので、引き続き丁寧に確認してまいります。
	Q17	支援終了後には、職員間で必ず支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか。	3.83	ドキュメントを参考にしながら振り返ることで、次回の子どもたちの活動に活かし、自分たちの支援に過不足がないかを職員間で確認してまいります。
	Q18	日々の支援内容を正しく記録し、支援の検証・改善につなげているか。	4.33	ドキュメントを作成することで、支援の検証・改善につなげています。保護者様にとっても支援の核が伝わりやすいと思いますので、引き続き作成してまいります。
	Q19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適用期間内に次期個別支援計画の説明ができていますか。	4.33	6か月に一度のモニタリングにて、保護者様と成長を確認しあひながら次期の目標を立案してまいります。
	Q20	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか。(自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供など)	4.17	引き続き、「児童発達支援ガイドライン」「保育所保育指針」「学習指導要領」などの学びを深め、乳幼児期に必要な支援がしているよう努めます。
	Q21	適切な指導の提供について、ご意見をお聞かせください。		
保護者との関係構築について	Q22	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4.33	利用者アンケートの結果からも、保護者様が横浜西口ルームが子どもたちに関わる上で大切にしている思いをご理解いただけていることを感じています。今後も、活動後の振り返りや、ドキュメントを通して共通理解に努め、一緒に子育ての楽しさや苦しさを分かちあえるように努めてまいります。
	Q23	所属の幼稚園や保育園等と連携し、相互理解や支援のアドバイス等に努めているか。	3.83	多くの要望をいただいているにも関わらず、コロナ禍という状況もあり、幼稚園訪問に伺えず、心苦しい気持ちでいっぱいです。感染状況が落ち着いてきておりますので、順次伺えるよう調整してまいります。
	Q24	児童発達支援事業所同士で連携をとり、情報共有、相互理解に努めているか。	3.50	コロナ禍で難しい状況ではありますが、可能な限り連携し、生活の中で連続性のある支援になっていくよう努めてまいります。
	Q25	児童発達支援事業所から放課後等デイサービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容などの情報を提供するなどしているか。	3.67	下期にはご要望に応じて、就学支援シート（関係機関連携加算Ⅱ）を作成してまいります。是非、ご利用予定の放課後等デイサービスにもご持参くださいませ。

2021年度 発達支援つむぎ 横浜西口ルーム 職員アンケート改善策報告

いつも発達支援つむぎをご利用いただき、ありがとうございます。職員アンケートの結果および改善策の報告をいたします。
 今後も支援の質向上に努めてまいりますので、お気づきの点などございましたら、施設長または職員にお気軽にお知らせください。

保護者との関係連携にやっています	Q26	児童発達支援センターや発達障害者支援センターなどの専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	3.50	現在、外部機関との連携自体が減っています。社会情勢的な難しさもありますので、連携が難しくてもサービスの質が落ちないよう、自事業所内での学びあいを十分に行っているようにいたします。
	Q27	地域自立支援協議会や社会福祉協議会など、地域連携を図るような会議に積極的に参加しているか。	3.33	26項目と同じく、可能な限り自立支援協議会等に参加し、地域連携を図れるよう努めてまいります。
	Q28	障害のない子どもと活動する機会を設けているか。	3.83	コロナ禍で難しい状況ではありますが、地域の公園で出会った子どもたちとも積極的に交流してまいります。
	Q29	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を行っているか。	3.00	28項目と同じく、コロナ禍で制限せざるを得ない状況にはありますが、その中でできることは何かを職員全員で考え実施してまいります。
	Q30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニングなどの支援を行っているか。	3.17	ドキュメントを活用しながら、職員はこのときどのような言葉かけをしたのか、そこにどのような考え（意図）があったのかを説明することで、保護者様も同じような言葉かけができるような支援をしております。
	Q31	関係機関や保護者との連携について、ご意見をお聞かせください。		
保護者やお子さまへの対応などについて	Q32	契約、支援の内容、利用者負担などについて丁寧な説明を行っているか。	4.50	どの職員でも同じように説明を実施できるようにしてまいります。
	Q33	保護者からの子育ての悩みなどに対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3.50	直接お話いただいたこと、お電話で承ったこと、全職員で共有し、どの職員からも必要な助言が行えるように努めてまいります。
	Q34	保護者同士が集まれる場の提供など、保護者同士の連携につながる支援を行っているか。	4.17	グループ活動の振り返りなどをうまく活用しながら、育児のうれしさや悩みを保護者様同士で語り合えるような場を作っております。
	Q35	お子さまや保護者様からの苦情があった場合、迅速かつ適切に対応しているか。	4.17	苦情に至る前に解決していけるよう、日頃から保護者様との密なコミュニケーションに努め、気軽にご意見を言っていただけるような関係性になるよう努めてまいります。
	Q36	掲示物やホームページなどで、活動内容やイベント開催告知など、お子さまや保護者様に対して情報を発信できているか。	4.33	今後も余裕を持ったタイミングで情報発信をしていけるよう努めてまいります。
	Q37	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。（例：分かりやすい言葉かけをしているか、専門用語を使い過ぎないかなど）	4.50	今後もわかりやすい説明に向けて、ドキュメントの活用など含め行ってまいります。
	Q38	個人情報の取扱に十分注意しているか。	3.83	主に事務所内の机の上に、個人のファイルが乱雑に置かれているなどといったことのないよう、取り扱いに留意してまいります。
	Q39	職員同士の連携や情報共有は適切に行われているか。	4.33	チーム支援の力が増し、いつ休んでもいつでも振り返りができるという安心感を子ども・保護者様に提供していけるよう、コミュニケーションを密にとっております。
	Q40	保護者やお子さまへの対応などについて、ご意見をお聞かせください。		
非常時の対応について	Q41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを、把握できているか。	4.17	運営マニュアルに基づいた対応をしていけるよう、マニュアルの読み合わせを十分に行ってまいります。
	Q42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか。	4.00	現在、月に一回避難訓練を実施しています。訓練のための訓練にならないよう、より臨場感や危機意識を持ちながら行ってまいります。
	Q43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしているか。	3.50	2021年下期に虐待防止研修を行う予定です。その場で今一度対応方法を学びあい確認する予定です。
	Q44	ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有しているか。	4.17	引き続き、大きなケガや事故を防ぐため、日ごろからヒヤリハットを共有しあうようにします。
	Q45	非常時の対応について、ご意見をお聞かせください。		有事の際に、冷静に行動できるよう努めてまいります。
満足度について	Q46	利用児はつむぎに楽しく通っていると思うか。	4.67	「早く〇〇ちゃんと遊びたいな」と言ってしまうくらい職員の方が、子どもたちと遊べることを楽しみにしています。職員の楽しい気持ちが子どもたちにも十分に伝わるよう関わってまいります。
	Q47	つむぎの支援を通じて、利用児の変化や成長を実感することがあるか。	4.50	子どもたちの変化や成長こそ働く上で一番のモチベーションになります。その喜びを職員全員で分かち合いながら、日々の支援に励んでまいります。
	Q48	設問事項に関わらず、ご意見・改善点などなんでもお聞かせください。		